

2024 年度普及啓発事業の実施結果について

1 「手話言語・障害者コミュニケーション交流セミナー」の開催

手話言語及び障害の特性に応じたコミュニケーション手段等を広く県民に普及啓発するためのセミナーを開催。今年度は発達障害を中心に提起、ゲストや解説の構成もそれを踏まえたものとした。

(1) タイトル

『互いに理解し、ともに生きるために ～発達障害を通して、多様なコミュニケーションと共生社会を考える～』

(2) 日時

2024 年 9 月 22 日（日・祝）10 時 00 分～11 時 40 分

(3) 会場

ウインクあいち 大ホール
(愛知県名古屋市中村区名駅 4 丁目 4-38)

(4) 参加者数

会場参加とあわせて動画配信を実施。ともに事前申込制。

- ・会場参加者数 225 名（定員 400 名、事前申込 358 名）
- ・動画視聴者数 150 名（定員 150 名）

動画視聴回数 225 回（配信期間：10 月 24 日（木）～11 月 7 日（木）

(5) 全体スケジュール

時間	内容
10:00～10:40	○小島 慶子トークショー「みんな違ってみんな『ふつう』～ひとりの ADHD 当事者として考えること～」
10:40～11:40	○みんなで学ぼう！さまざまな、コミュニケーション方法 講師：桜花学園大学 副学長 柏倉秀克 氏

(6) アンケート結果

(回答者数：会場参加者 150 名、動画視聴者 49 名、合計 199 名)

感想、意見等（抜粋）

- ・小島慶子さんの当事者としての語りがわかりやすく、共感的に拝聴できた。時々動画が組み込まれていたのも理解しやすさに繋がりました。
- ・専門用語などをわかりやすく説明していただいた。
- ・当事者からのお話は具体的でわかりやすく、専門家のお話と合わさると理解しやすかった。
- ・自身も発達障害といわれ、障害を隠してアルバイトをしている。
- ・息子が発達障害のため理解を深めたかった。
- ・保育の仕事で接する子どもの中に特性のある子が多いため、何か対応のヒントが得られたらいいと思った。
- ・発達障害を持つ方と日常的に接しているが、自分の対応がそれでいいのか迷うことがあり、当事者である小島慶子さんから話が聞けるから参加した。

○参加者の年代

10～20 代	4.0%
30 代	1.5%
40 代	13.7%
50 代	39.6%
60 代	27.4%
70 歳以上	12.7%

○障害のある方と関わる機会の有無

ある	53.1
たまにある	18.0%
ほとんどない	18.0%
ない	8.8%
自身が障害の当事者	2.1%

○講演時間について

ちょうど良かった	80.7%
長かった	15.0%
短かった	4.3%

○本セミナーは有意義なものになりましたか？

大変満足	57.1%	やや不満	2.0%
満足	38.1%	不満	0%
普通	2.7%		

○本セミナーに参加する前と比べて、

それぞれの障害者コミュニケーション方法についての理解が深まったと思いますか？

そう思う	95.2%	そう思わない	4.8%
------	-------	--------	------

2 コミュニケーション支援アプリの運用・周知活動

(1) 運用

交通機関の表示項目を以下のとおり追加。

私（障害のある方）から伝える項目を追加

- ・「〇〇はどこですか」という項目のバリエーションとして、トイレ、きっぷうりば、改札口、出口、コインロッカー、エレベーター、キャッシュサービス、売店、飲食店、案内窓口を追加。
- ・「〇〇に乗りたい」という項目を追加。その項目のバリエーションとして、電車、地下鉄、バス、タクシー、新幹線を追加。
- ・「〇〇までいきたい」に対して、指さしで時間や金額を伝えられるよう数字を表示。
- ・「落とし物をした」という項目を追加。そのバリエーションとして、きっぷ、交通系ＩＣカード、傘、財布、かばん、携帯電話、鍵、障害者手帳を追加。
- ・「落とし物を拾った」という項目を追加。

対応者から伝える項目を追加

- ・「何を探していますか」という項目を追加。項目のバリエーションとして、トイレ、きっぷうりば、改札口、出口、コインロッカー、エレベーター、キャッシュサービス、売店、飲食店、案内窓口などを追加。

(2) 周知活動

- ・県政お届け講座「手話言語と障害者コミュニケーション」でアプリの説明を実施
- ・手話言語・障害者コミュニケーション交流セミナーで参加者にチラシを配布
- ・市町村職員向け避難所コミュニケーションセミナーでチラシを配布
- ・東海テレビ放送主催「ふるさとイッチー祭」(2024年10月26日(土)、27日(日))でチラシを配布

3 市町村職員向け避難所コミュニケーションセミナーの開催

障害のある方々が災害時に避難所で必要な情報を得られやすくする取組等を紹介し、避難所における情報格差の解消を図ることを目的として開催。

(1) 日時

2024年11月22日(金) 午後1時30分から午後4時30分まで

(2) 参加者数

37市町村から57名(福祉部局33名 防災部局24名)

(3) 内容

- ・講演(インクルーシブ防災と情報保障の課題、災害時に視覚障害者が困ること(講師:古家委員))
- ・先進的な取組事例の紹介(アイ・ドラゴン4(講師:中村委員)、視覚情報の音声化技術)
- ・グループワーク(絵や文字による情報提供を通して情報格差をなくす取組)

(4) アンケート結果

- 感想、意見等(抜粋)
- ・実験体や当事者のお話を聞くことは、ただ制度や概論を聞くよりも理解の深まり方が格段に違うと思いました。
 - ・「そこの席あいてるよ」「そこってどこ?」という当事者視点の話があり、その後のグループワークにも役立てやすかった。
 - ・アイ・ドラゴン4を知ってはいたが、実物を見るのは初めてだったので良かった。
 - ・先進的な取り組みをご紹介いただき勉強になりました。日頃からICT機器にふれ、使いこなせるようになっておくことが大切だと感じました。
 - ・なかなか防災部局の方とお話する機会がないので勉強になりました。改めて、福祉部局と防災部局の連携が必要だと思いました。

○講演の満足度

大変役に立った	40.0%
役に立った	53.2%
どちらでもない	5.5%
あまり役に立たなかった	1.3%
役に立たなかった	0%

○それぞれの障害やコミュニケーション方法
についての理解が深まったか。

大変深まった	36.2%
深まった	63.8%
どちらでもない	0%
あまり深まらなかった	0%
深まらなかった	0%